



青 於

7月号



4年社会科見学 (6/12)

真岡市にある住みよ
いくらしをつくる施設（石法寺浄水場、水処理セン
ター、真岡消防署、芳賀地区エコステーション）を見学し、日
常生活との関わりやそこで働く人々について学習しました。



2年生活科見学 (6/13)

根本山自然観察
センターに行きま
した。指導員さんの話を聴き、林の中に生
息している植物や生きものの観察をし
たり、ザリガニつりなどをしました。

5年臨海自然教室 (6/13~15)

体調を崩したり、大きなケガをし
たりすることもなく、天候に恵まれて、
計画されたすべての活動が予定通り行
うことができました。



音読集会 (6/20)

1年生は初めてでしたが、他の学年は、昨年までの経験を生かし
て、よい発表ができました。よかった点は、①「大きな声で、はき
はき発表ができたこと」、②「相手に伝えようと、気持ちを込めて発表できたこと」、③「い
ろいろな絵やものを使い、聴く人にわかりやすく発表できたこと」です。



朝会の話(7/2)「吉田松陰」

松陰は、1830年、長州で生まれた。6才のとき、藩校明倫館の師範を務める吉田家の跡継ぎとなり、厳しく教育されたので、10才で教壇に立ち、19才で師範になった。21才の時、見聞を広げるために日本各地を旅した。旅の途中、アメリカのペリーが、開国を求めるために、浦賀に現れたことを聞き、「外国に対抗するには自ら外国を見聞し、西洋の進んだ技術を学ぶしかない」と考えた。翌年、ペリーが再来航すると、松陰は弟子とともに黒船に乗り込み、アメリカへの密航を企てたが、応じてはくれなかった。自首した松陰は、長州・萩の野山獄に投獄された。獄に入っても、学問への意欲は旺盛で、無気力な囚人たちを励まそうと、獄中で勉強会を開いた。26才の時、野山獄を出された松陰は、松下村塾を開く。松下村塾は、意欲があれば誰でも学ぶことができた。そこで、「これからの日本をどうするか」などの話し合いが、活発に行われた。29才の時、幕府が日本に不平等な「日米修好通商条約」を締結したことに激怒した。幕府を批判したことで、斬首刑に処されることになった。処刑前日に、松陰は「留魂録」(身はたとひ 武蔵の野辺に朽ちぬとも 留置まし大和魂)を書き、その志は、塾生たちへ広く継承された。

夢なき者に理想なし
理想なき者に計画なし
計画なき者に実行なし
実行なき者に成功なし
故に、夢なき者に成功なし



6年社会科見学 (6/22)

午前中、しもつけ風土記の丘資料館、下野国分尼寺跡、下野国分寺跡を見学し、天平の丘公園で昼食を取りました。午後は、県庁で県民広場や危機管理センターなどの見学しました。



授業参観 (7/4)

一生懸命に授業に取り組む子どもたちの様子がご覧いただけだと思います。教育講演会は、睡眠健康指導士の先生から、「質のよい睡眠のために、してはいけないこと」「悪い睡眠は、学力や人間形成

に影響があること」「質のよい睡眠のための食べ物」などについて話を伺いました。

ひばりの会読み聞かせ (6/28)

1年「100万回生きたねこ」、2年「手ぶくろを買いに」、3年「仙人のおしえ」、4年「ちいさなオレグ」、5年「いのちのうた」、6年「犬から聞いた素敵な話」

